

学びの県 信州

「**学び体験**」の充実に向けて

学びの県 信州

【提案】 こんな信州になったら・・・
信州全体を理想の^{まなびや}学舎に！

信州が、
すべての子どもたちが、自身の興味関心について、とことん突きつめられるプログラム・イベントが実践できる場所、豊かな体験ができる場所に。

長野県の子どもたちが理想の学びを実現する場所

↓
— 多様な新しい「学び体験」のメッカに —

全国の子どもたちが多様な体験を求め、集まる場所

信州サマープログラム(SSP)構想

<未来図>

認める主体・ 推薦する主体	信州サマープログラム (信州をフィールドに行われる「学び体験」活動)
〇〇市	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 〇〇市内で実施する—— (実施主体 (株) 〇〇社) ◆ _____ (" NPO法人△△) ◆ _____ (" □□大学) ◆ _____ (" ☆☆公民館)
□□町	<ul style="list-style-type: none"> ◆ □□町内で実施する—— (実施主体 □□大学) ◆ _____ (" ☆☆公民館)
▽▽村	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ▽▽村内で実施する—— (実施主体 (株) 〇〇社) ◆ _____ (" NPO法人△△)

<コンセプト案>

※これからの時代を生き抜く子どもたちに必要とされる資質・能力を育む、質の高い「学び体験」をすべての子どもたちへ

※新しい時代の“学生村” → 県内外を問わず、子どもたちが交流

※地域の資源（人的、物的）を最大限に活用

※様々な知識と経験を有する働く大人たち、働いてきた大人たちが主体的に関わる



社会の変化を先取りして取り組む

(例1) 働き方改革

- ✓ 官公庁職員 – 連続休暇の取得 (例：10日以上(長野県職員の場合))
副業・兼業禁止規定を「原則禁止」から「原則容認」へ
- ✓ 民間職員 – 有給休暇の取得の義務化

(例2) 人生のマルチステージ化

- ✓ 人生二毛作社会
- ✓ 一人多役

※学校教育との接合 → 一律の宿題から個の多様性に応じた学びへ
→ 子どもたちが学びを主体的にデザイン

※文部科学省の新しい動き (別紙)

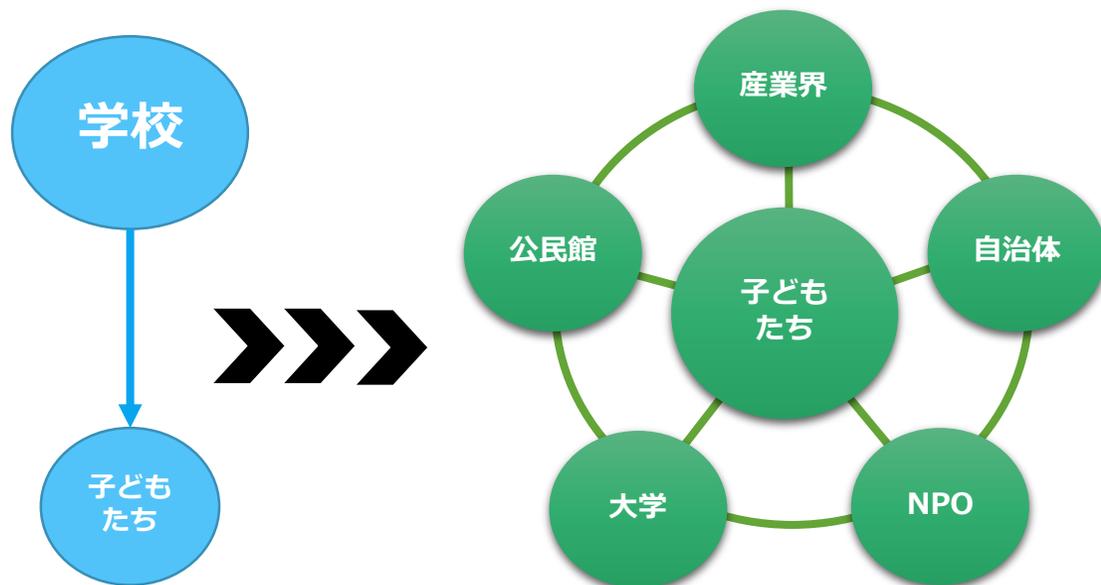


信州サマープログラム(SSP)成功のカギ

成功の鍵①

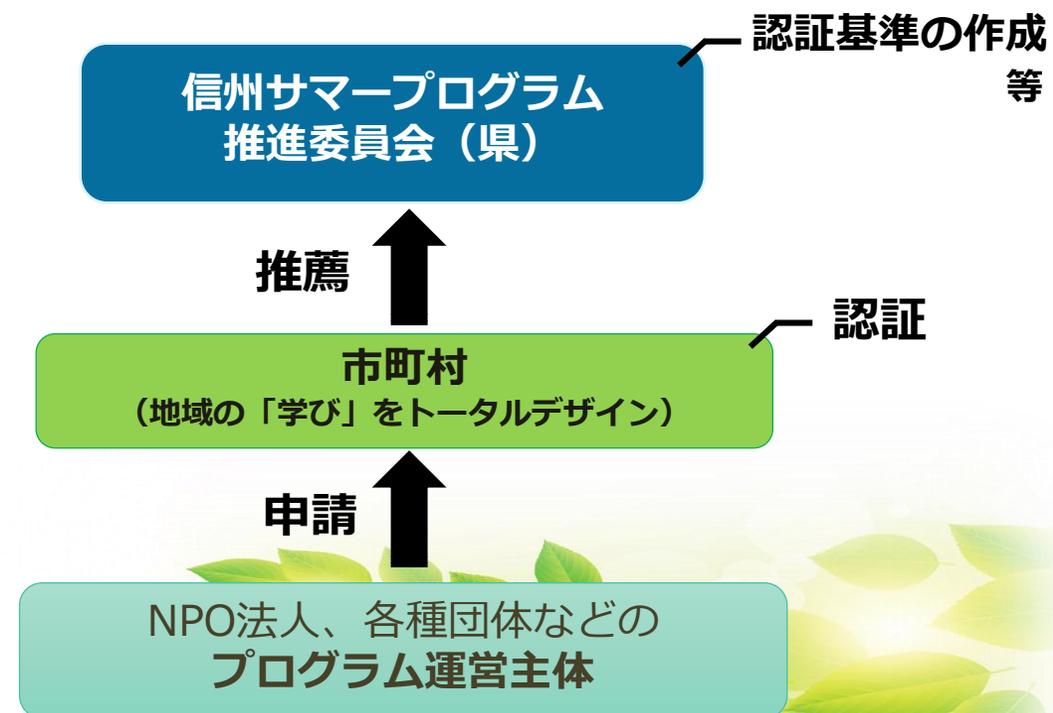
学校の学びから社会全体で
支え合う学びへの転換

「教育県」から「学びの県」へ



成功の鍵②

信州サマープログラムの
品質保証の仕組み（例）



信州サマープログラム(SSP)成功のカギ

成功の鍵③

- 信州サマープログラムの紹介と参加申し込みが一体化した新たなポータルサイトの構築
- プログラムの円滑な実施のための体制づくり



～プログラム参加希望者が「いつでも」

「どこからでも」簡単に申し込み～

成功の鍵④

- 夏休みの「学び体験」
(信州サマープログラム) の充実
⇔ 夏休みの延長
- 「長野県の夏休み期間のあり方検討委員会」
で課題を整理

第1回 長野県の夏休み期間のあり方検討委員会 (10月16日)での主な意見

- ✓ 夏休みを延長したときの子どもたちの居場所の確保は。
- ✓ 子ども中心に考えたときにベストな選択をとる必要がある。学校でない場所で子どもたちは何を学ぶか。

信州サマープログラム(SSP)構想の実現

<子どもたちにとって>

- 学校では体験できない新たな成長体験の獲得

<家庭・保護者にとって>

- 質の高いプログラムが提供される信頼感、安心感
全ての子どもたちへ → 貧困家庭への支援は不可欠

<学校・教師にとって>

- 学校での学びのフィードバック・学びの充実

<プログラム提供者にとって>

- 知名度、集客力の向上、評価による品質の向上

※ 魅力あるプログラムづくりを「地域発元気づくり支援金」で支援

<地域にとって>

- 学びを核として地域振興、交流人口の拡大



信州は
「学びの県」



信州サマープログラムで想定される取組事例① ：自然体験活動

◆ 「花まる学習会」のサマースクール（北相木村）

民間学習塾「花まる学習会」による、小学生から中学生を対象に、北相木村の豊かな自然環境のもとで、都会の子どもたちが50名程参加し、3泊4日の集団生活の中で、地元の子どもたちとの交流や自然体験活動を行うサマースクール。

本取組は、山村留学の希望者増加にもつながっている。



信州サマープログラムで想定される取組事例② ：自然体験活動

◆ 「タイニーキャンプ・リトルキャンプ」 （長野県）

小学校低学年（1～4年生）を対象に、長野県少年自然の家において、1泊2日(※)の自然体験活動を実施。

他者との共同生活の中で、「生きる力」を育成する狙い。

(※)現在、初夏～冬(夏休み期間除く)の連続した土日に実施



信州サマープログラムで想定される取組事例③ ：自然体験活動

◆「夏休み子ども学級（山っ湖学級）」（岡谷市）

夏休み期間を中心に、おおむね3日間の日程で、諏訪湖近くの岡谷市湊地区にて、自然散策、採集、工作、飯ごう炊さんといった野外体験学習を通じて児童生徒が交流する。（「手作りイカダで諏訪湖に漕ぎ出そう」など）

自然との関わりの中で育まれる「豊かな心」や危機管理能力、子どもが主体的に考え行動していく意識の醸成が狙い。



信州サマープログラムで想定される取組事例④ ：世界とのつながり

◆信州グローバルユースセミナー ：「小布施サマースクール」 （長野県）

8月中旬の1週間、最先端の教育を提供する海外大学への日本人留学生や、様々な国籍の外国人学生を長野県に招へいし、小布施町を拠点として、県内外高校生を対象にグローバルな視点や価値観を学ぶための体験的プログラム。



信州サマープログラムで想定される取組事例⑤ ：地域とのつながり

◆「夏休み上野が丘わいわい塾」（上田市）

夏休み期間の4日間、公民館等を使って午前は自主学習を、午後は工作、おやつづくりなどの体験プログラムを、地域在住の元教員経験者や公民館主事と一緒に学習するという小学生の居場所づくり事業。

縁のある良泉寺本堂での座禅体験や市民の森での野外体験活動も取り入れた。ボランティアスタッフには中学生、高校生も参加している。



信州サマープログラムで想定される取組事例⑥ ：地域とのつながり

◆「小学校農業宿泊体験」（飯田市）

教育委員会・小学校・公民館が連携して実施。

5、6年生の小学生を対象に、受け入れ先の農家で農作業の手伝い、夕食づくり、家畜の世話や観光客への接客などを、1泊2日(※)で体験する。

自立心や地域への愛着心の醸成が狙い。

(※)平日の授業日に実施（学校により時期は様々）





信州サマープログラムで想定される取組事例⑦ ：地域とのつながり

◆「サマーチャレンジ」(原村)

原村社会福祉協議会が実施する、夏休み等の数日間を利用したボランティア体験事業。

主に、小・中・高校生を対象に、保育園、幼稚園、障がい者入所施設、高齢者入所施設などで、ボランティア活動を通じ、園児との触れ合いなどを体験する。

